

eライブラリアドバンス

2021年11月号 Vol.200



大阪府富田林市立 第三中学校

e ライブラリで既習事項の復習

~集中力と学習意欲が向上~

第三中学校では、一人一台のタブレットを身近な学習ツールとして、日常的に授業で活用しています。今回は、既習事項の復習として活用している e ライブラリの実践をご紹介します。

「達成感」の繰り返しが、集中力の向上へ



▲ 先生から出題された課題に取り組む

数学 3年:関数 $y = ax^2$

この日の授業は、「学習指示」で出題された課題で既習事項の復習からスタートです。休み時間の和気あいあいとした雰囲気から一転して、生徒は真剣な眼差しで先生から出題された課題に取り組みます。自分の解答に「O」が表示される達成感から、自然と目に力が入り、集中力が高まっていきます。休み時間から授業の切り替えにメリハリがつき、その後の学習活動へスムーズに移行できるとのことです。

■ 段階的・計画的な復習が、生徒の主体性を育む



▲「学習メモ」機能で途中式を書いて解答する

「既習事項の共通の課題を段階的に出題し、計画的に復習していくことがねらいです」と杉田先生。毎時間、eライブラリのドリルで復習をしていることもあり、取り組み方も様々です。「学習メモ」機能で途中式を書いて、思考を可視化したり、正誤判定後に「解説教材」や「解答解説」で問題内容をふりかえったり、既習事項の理解を深めようとする主体的な姿が見られました。

インタビュー すべての生徒へ「わかった」の喜びを伝えたい



e ライブラリには、生徒の心をくすぐる機能があります。学習を進めていくと少しずつ育っていく「木」が、やる気につながっている生徒が多いです。体の大きくなった中学3年生の生徒が「木がまた育った!」と笑顔になる光景は、心温まる瞬間です。数学が苦手な生徒も、類題が続くことで、理解につながり、正解にたどり着けています。やれば正解にたどり着ける感覚が、なかなかやる気に火をつけることができなかった生徒の心にも火をつけてくれます。

タブレット導入初期は、真新しさもあり、生徒もタブレット学習に意欲的に取り組んできました。しかし、タブレット学習に慣れてきた今では、つまずきのある生

徒の意欲を継続させることに課題があります。今後はそういう生徒が、授業の中で「わかった」と喜びを感じ、意欲的に取り組めるようにICTを効果的に活用し、より理解できる授業づくりを目指したいです。



ドリル学習中の準備が、スムーズな授業の進行につながる



▲ 生徒がドリルに取り組んでいる間に板書する

んでいました。

生徒がドリルに取り組んでいる間は、出題した課 題の「進行度」や「正答率」が一目でわかる「モニ タリング」機能で、取り組み状況の確認です。つま ずいて先に進めない生徒に考え方を解説して、励ま し声をかけます。一人ひとりの理解状況に沿った、 きめ細やかな指導が、次の問題へ取り組む意欲を高 めていました。

「テンポよく授業を進めて、生徒が学習活動をし 続けられるようにしたいです」と杉田先生。

机間指導と板書やプリントの配布を行い、生徒はドリル学習後、すぐに次の演習問題に取り組

▼ 授業の流れ



生徒

「モニタリング」機能で机間指導 板書やプリント配布など授業準備

ドリルで既習事項を復習する



本時の学習内容をテンポよく解説

待ち時間無く、先生の解説を聞く プリントの演習問題を解く



本時の学習内容を全員でふりかえる

動画を閲覧してまとめを行い、 授業でわかったことや感想を書く

インタビュー 個別最適化された学びが主体性を引き出す

一人一台のタブレットが導入されてすぐに、教員同士が一丸となり、授業のねら いに沿ってICTを効果的に活用できるように実践を重ねてきました。その甲斐も あり、生徒からも「授業がわかりやすくなった」と声が挙がるようになりました。 e ライブラリは、生徒自身が教材と難易度を選んで学習したり、習熟度に応じた課 題が出題されたりするので、個別最適化された学びにつながります。**教員も生徒の** 学習結果を一目で確認できる上に、学習をしている時間帯も見られるため、家庭学 習の状況把握や生活面の声かけにも利用でき、大変重宝しています。



生徒の個性を大切に、誇りをもって成長してほしい



e ライブラリは、既習事項の復習として利用していますが、**生徒一人ひとりの習** 熟度に応じた問題が出題され、学習意欲が高まる仕組みもあるため、個別最適化さ れた学習に適していると感じています。

本校の生徒は、とても人懐っこく素直なところが特徴です。近年では、人間の代 わりにAIが仕事をすると言われていますが、その時代を生き抜くために、「どの ようにしたら人間にしかできない仕事に就き、豊かな人生を送っていけるか」など を『考える力』も身につけてほしいと思っています。今後も、ICTを学習ツール として適切な場面で利用した授業ができるように、教員と一丸になって取り組んで いきたいと思っています。そして、生徒にも「ICTをどこよりも先進的に活用し ている」と誇りをもって成長してほしいと心から願っています。

